



平成元年 5 月 15 日

発行・編集 国見町企画課

奥州合戦から800年	2～3
ブラジル国から農業研修生	4
ふるさとの文化財	5
おしらせ	6～7
公民館だより	8～9
わだい	10



町内会自慢 ②

貝田水雲神社

貝田町内会

貝田地区は昔から“水”が少なく、地区住民は水の確保に大変苦労してきました。山からの出水が少なく、祖先が水不足の解消を願って建立したのが「貝田水雲神社」です。神社境内にある記念碑でわかるように、大正3年頃の干ばつの時には特に水が不足し、8月頃になってようやく田植えを行ったことがあるほどです。さらに、昭和中頃に東北新幹線蔵王トンネルの工事が始まり、一滴の水も湧水も止まり渇水対策委員会を組織しました。地区民一丸となって国鉄（現JR）との交渉にあたり、10余年を費やしました。その結果、現在では水不足に悩まされることなく生活しています。

（町内会長 松田伝治さん談）

'89 5 月

V S 源頼朝 から800年～



▲JR東北線沿いの防壁

奥州合戦が行われたのは文治五年（一一八九）。国見町は「天王山」ともいわれた阿津賀志山の戦いの舞台になりました。町内には奥州藤原氏が築いた阿津賀志山防壁跡が残し、国史跡に指定されています。町では八百年を機に記念事業を計画、「奥州合戦八百年記念事業実行委員会」も発足し、武者行列や記念碑建立、記念誌の発行などの検討を進めています。今月号ではこの防壁を中心に、現在でも残されている関連遺構を紹介します。



▲阿津賀志山防壁

戦いの足跡

今年、文治五年（一一八九）に阿津賀志山を舞台として激戦がくり広げられた奥州合戦から、ちょうど八百年目にあたります。この戦いは奥州（現在の東北地方）を支配し、岩手県平泉を本拠とし栄華を誇っていた藤原氏を、全国平定をねらう源頼朝の率いる鎌倉軍が攻め滅ぼすとしたものでした。藤原泰衡は鎌倉軍をこの阿津賀志山でくいと止めようと、二重に二重の空堀と三重の土塁から

厚樫山の中腹から滑川の右岸に沿って、阿武隈川の旧河道が西根台地に接する西大枝の石田に至る帯状の空堀遺構で、地元では二重堀と呼ばれています。藤原泰衡が源頼朝軍を迎撃するために築いた堀遺構で、斜線を施した部分に遺構が残っており、特に森山の国見、大木戸の遠矢崎・赤穂、西大枝の下二重堀地内では、構築時の姿で原形が残されています。



▲阿津賀志山遠景



▲小坂峠

結城(小山)朝光などが、安藤次の案内で藤田宿から藤原国衡の守備する阿津賀志橋を、西側の山地を大きく迂回して搦手から奇襲した鳥取越は、この峠と思われます。



▲藤田宿・源宗山

文治5年8月7日から10日にかけて、藤原国衡が率いる奥州軍の守備する阿津賀志楯を攻撃した源頼朝の本営が置かれた所で、源宗山はその戦闘指揮所といわれています。

藤原泰衡 ～奥州合戦

阿津賀志山楯及び関連遺構分布図

(原図は『福島県中世城館跡』より転載)



なる。長さ約四キロメートルになる。およぶ防壁を築きましたが、三日間にわたる激しい戦いの末、鎌倉軍が勝利し、藤原氏は北へと敗走して滅亡への道をたどりました。

この戦いによって、奥羽の地は頼朝の支配下におかれ鎌倉幕府の覇権が全国的に確立されました。

二重堀は現在でもその姿を残しており、昭和五十六年に阿津賀志山防塁として国の史跡に指定されました。

ようこそ ブラジル国 農業研修生

四月十日、ブラジル国女子農業研修生九人が来町しました。今後一年間、町内の農家にホームステイし、農業を勉強するかわら地域の人たちと交流し、国際親善を深めます。

これは、県農協中央会と福島国見町農協(菊地太三組合長)がタイアップして企画したもので、今回訪れた研修生は宇野百合子さんら日系二世、三世の独身女性九人。宇野さんらは日本の農業技術を習得するほか、日本語研修、農業後継者との交流会などに参加します。

十日午後、役場を表敬訪問し、富永町長らと歓談し、翌十一日、

国見町農協会館で開かれた「ブラジル国農業研修生歓迎会」では、研修生を代表して宇野さんが「両親の故郷の日本に来るの

を夢見ていましたが、その願いがかないました。一生懸命勉強しますので、一年間よろしくお願いします」とあいさつしまし

た。今月はその様子をカメラでボしてみました。



▲富永町長を表敬訪問した研修生



▲富永町長から町章の贈呈を受ける研修生



▲和やかに歓談



▲研修生を代表して宇野百合子さんがあいさつ



▲受入農家のかたがたと対面



▲農協女子職員から花束贈呈

ふるさとの文化財 ⑥2

村落の地名

前田郷

菊池利雄



前田郷(村)要図

小坂村は近世初頭以前は前田(舞田)郷(村)と呼ばれていた。現在も東北自動車道国見インターチェンジの付近は、通称前田と呼ばれ、旧羽州街道沿いに上前田および地続きの東側に中前田の字名が残されている。前田郷の初見史料は、天文七年(一五三八)九月三日、伊達

植宗が領国内の郷村に賦課した段銭高を書き上げた「御段銭古帳」に「伊達にしね、一、十貫三百四十文、まい田」があり、当時前田郷には約二十五町程(一町は約四二五坪)の水田の存在が知られる。降って天文十一年(一五四二)より十七年(一五四八)にかけて伊達植宗と晴宗の父子間で争われた天文の乱においては、この郷を本拠とした前田館の安積金四郎、歌丸館(小坂字)の歌丸帯刀は晴宗方について所領の安堵や加恩にあずかっていた。(伊達晴宗家地下賜録)

天正十九年(一五九一)、豊臣秀吉の奥羽仕置によって伊達政宗は米沢城より大崎岩手山城へ国替となり、伊達郡は蒲生氏郷に与えられ、文禄三年(一五九四)七月検地を行い「蒲生領高目録」を作成した。これによれば前田村は九百十一石四斗の村高とされ、大新左の給地とされている。

ついで慶長三年(一五九八)越後国春日山城より会津若松城へ移った上杉景勝領となった。慶長十年代に上杉藩によって作成された「邑鑑」には舞田村の記載があり、村高は九百十一石四斗、戸数三〇戸、人口百五十四人と、この時期における具体的な村況が判明してくる。

(国見町史 第二巻) 元和八年(一六二二)六月、秋田藩家老梅津政景は、幕府の意向を受けて奥羽地方の表と裏を結ぶ幹線道路としての笹谷峠越えが、標高が高く冬期間は積雪が多く交通の妨けとなっていたことから、これに代えて小坂・金山峠越えの七ヶ宿街道の整備を企図し、桑折・関・山形間の街道、宿駅を六十間の縄で丈量したと記される。寛永元年(一六二四)佐竹義宣が参勤を終えての帰国には小坂宿を通ったといわれ、この頃より羽田国の諸大名の参勤交代の通路として使われた。萬治二年(一六五九)上杉藩によって「伊達郡西根小坂村御倉給人上納帳」が作成され、百姓数五十七戸、村名が前田から小坂と変更されたことが知られるが、この時期については資料を欠き明らかでなく、今後の調査検討に待たたい。

延宝二年(一六七二)幕府代官国領半兵衛は、信濃両郡の総検地を行い「小坂村検地帳」を作成、小坂村の総戸数七十七戸、中五十七戸は宿町住まいであり、中世前田郷時代の散村集落から村の中心地が小坂の宿町集落へと移行したのが、村名を変更した大きな要因であろう。

延宝二年(一六七二)幕府代官国領半兵衛は、信濃両郡の総検地を行い「小坂村検地帳」を作成、小坂村の総戸数七十七戸、中五十七戸は宿町住まいであり、中世前田郷時代の散村集落から村の中心地が小坂の宿町集落へと移行したのが、村名を変更した大きな要因であろう。

延宝二年(一六七二)幕府代官国領半兵衛は、信濃両郡の総検地を行い「小坂村検地帳」を作成、小坂村の総戸数七十七戸、中五十七戸は宿町住まいであり、中世前田郷時代の散村集落から村の中心地が小坂の宿町集落へと移行したのが、村名を変更した大きな要因であろう。

延宝二年(一六七二)幕府代官国領半兵衛は、信濃両郡の総検地を行い「小坂村検地帳」を作成、小坂村の総戸数七十七戸、中五十七戸は宿町住まいであり、中世前田郷時代の散村集落から村の中心地が小坂の宿町集落へと移行したのが、村名を変更した大きな要因であろう。

国保コーナー

保険証は大切に使いましょう

保険証は、国保の被保険者であるという証明書です。そして、診療を受けるときの受診券でもあります。

次のことに十分注意して大切に取り扱いましょう。

- ☆記入事項に間違いがないか確かめましょう。
- ☆有効期間の切れた保険証は使ってはけません。
- ☆病院などでの顔パスはやめましょう。
- ☆保険証の貸し借りはやめましょう。
- ☆保険証を紛失したり、破損したりしたときは届け出ましょう。
- ☆いつでも使えるように、必ず手もとに保管しましょう。
- ☆会社に通勤したり、やめたりして健康保険が変わったときは、その手続きをしましょう。

医療制度とは

七十歳以上(寝たきりの人は六十五歳以上)の方がお医者さんにかかるときは、老人保健法による医療制度のもとに医療を受けることになります。

これは、おとしよりが安心して医療が受けられ、健康な毎日を送られるように、医療費の負担を軽減することを目的としています。

※手続き

該当される方には、役場保健課から通知が出しますので、保険証、印鑑を必ず持参してください。

お医者さんにかかるとき

診療を受けるときは、「健康手帳」「医療受給者証」それに「保険証」を窓口提示してください。

※一部負担金について

病気やケガでお医者さんにかかるときは、一つの医療機関(総合病院などは一つの科ごと)について、次のようにな部負担金を支払うようになります。

○通院：一か月八〇〇円を自己負担(各月において初めて受診するときに、窓口を支払います)

○入院：一日四〇〇円を自己負担(老齢福祉年金受給者で住民税非課税世帯者は一日三〇〇円を二か月間の限度で負担します)



「みどりの日」

作品募集

緑豊かな潤いのある都市環境の整備を図るため、毎年四月から六月までの二か月間を春季における都市緑化推進運動期間と定められ、また、四月二十九日は「みどりの日」に制定されました。

町では、生垣づくり、庭づくり、ベランダ緑化、事業所緑化、または家庭園づくりなど「みどりの日」に関する次の作品を募集します。町民の皆さん奮って応募ください。

▽募集作品

- 図画の部：ハツ切以上
- 写真の部：キヤベネ版
- 作文の部：テーマ「みどりの日」(四〇〇字原稿用紙二枚以内)
- ▽募集期間
四月二十日～六月九日まで
- ▽応募資格
国見町内に居住している小

▽応募要領

住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記して申し込みください。

▽提出先

国見町役場建設課都市整備係

なお、応募された作品については、六月十五日から六月三十日まで、国見町福祉センター講堂に展示します。

詳しくは、建設課都市整備係(☎八五二二一一、内線二四二)へおたずねください。

水道使用者の皆さんへ

水道料金を改正

国見町水道事業については、昨年十月一日に二五・二%の値下げを実施しましたが、新聞、テレビなどのマスコミでご存知のように、平成元年四月一日から消費税が施行されました。

これにより、水道料金も現行の料金に消費税三%を加えた税込料金の改正(円未満切り捨て)となりますので、皆様方の特段のご理解とご協力をお願いいたします。

なお、四月一日適用となりますが、これ以前から継続して供給を受けている方は、五月検針

の水道料金には課税されません。詳しくは、町役場水道課(☎八五二二一一、内線二二二)へおたずねください。

現況届の提出を忘れずに

年金を引き続いて受けるためには、年一回「受給権者現況届」を提出しなければなりません。今年から障害年金などの短期年金の現況届の提出期限が「誕生日の末日」に変わりました。これは老齢年金などの長期給付に歩調を合わせたものです。

提出する現況届は、誕生日の月初め頃に「社会保険業務センター」から受給権者に送られてきます。

自動車税は

お早めに

五月は自動車税の納期です。平成元年度の自動車税の納期は、五月三十一日までとなっています。最寄りの金融機関などに忘れず完納されるようお願いいたします。

また、自動車税を完納したときは、納税証明書のついた領収証をお渡ししています。この納税証明書は、車検を受ける時に必要となりますので、紛失しないよう車検証といっしょに保管しておきましょう。

なお、ご不明の点がありましたら、福島県税事務所(福島市杉妻町二一六、☎二二一一一)内線三四一三(三四二二)までお問い合わせください。

作品募集 ふくしま緑の 写真コンクール

県民一人ひとりに自然の美しさ、緑の大切さを再認識してもらうため、県民が選んだ「ふくしま緑の百景」を中心に、「第四回ふくしま緑の写真コンクール」を実施します。あなたの身近にある「鎮守の森」や「公園」など、豊かな緑を題材とした作

品を奮って応募ください。

▽応募要領

- ①応募資格：県内の居住者とし、作品は自作に限ります。(職業写真家は除きます)
- ②作品：カラープリント四ツ切サイズの一枚写真(スライドや組み写真は除きます)応募点数に制限はありません。
- ③応募方法：所定の応募用紙に住所、氏名、年齢、職業、郵便番号、電話番号、撮影地名を記入し、作品の裏に添付し、〒960福島市中町一八(県林業会館内)県緑化推進委員会。または〒960福島民報社企画事業局あて郵送か直接持参してください。
- ④締め切り：十月三十一日

▽表彰

- 特選(1点) 賞状、盾、賞金5万円
金賞(5点) 賞状、賞金3万円
銀賞(6点) 賞状、賞金2万円
銅賞(6点) 賞状、賞金1万円

入選(30点) 賞状、記念品
佳作(数点) 賞状、記念品
なお、詳しくは民報社企画事業局(☎三三一四一七)までお問い合わせください。

5月25日(木) 桜沢 正・山内 聡子
6月5日(月) 鈴木 正雄・牧野 容子
6月15日(木) 斎藤 光夫・篠瀬 貞子



▲祝辞を述べる富永町長

平成元年度の阿津賀志学級開講式並びに交通安全大学証交付式が、四月二十八日、百六十三名が出席して、町福祉センター講堂で行われました。

蓬田教育長、山田公民館長のあいさつの後、新しく学級生になった三十六名に大学長である富永町長から交通安全大学証が交付され、交通規則の遵守と事故防止への決意を新たにしました。

阿津賀志学級が

開講

た。

続いて、町長及び関係者、警察署長から励ましのことがあり、生涯学習に対する重要性を更に認識するとともに、学習への参加意欲を強めました。

今年度の学級生は三百一名で、年間計画として見学学習を含め全体学習会を十五回、趣味のグループ学習「ゲートボール、園芸、書道、手芸、社交ダンス」が二十七回予定されています。

開講後、第一回の学習として前半田饒芳小学校長猪俣好己先生から「家庭教育と祖父母の役割」というテーマで有意義な話を聞き、充実感と満足感のうちに終了することができました。

今後、年間計画に基づき学習会を行うわけですが、数多くの出席をお願いします。

なお、今年度の学級運営委員会の役員は、前年度に引き続き次の方々が再任されました。

委員長 藤田 勝衛
副委員長 吉田 嘉蔵
「」 佐久間 ち
「」 阿部 重雄
庶務 遠藤源五郎



国見町公民館

☎85-2676
(有) 4156

大正琴クラブが 緑風園で慰問演奏

大正琴クラブ

佐久間イネ子

琴の音色で心にやすらぎを、と、私たち大正琴クラブは、四月十三日桑折町の緑風園で慰問演奏しました。

園庭に咲きみだれる春の花々に迎えられ、玄關に入った私たちクラブ員十二名は、廊下でお会いするお年寄りや、職員の皆さんの礼儀正しく明るい雰囲気を感じしました。

演奏曲目は、お年寄りもいっしょに歌えるように童謡から歌謡曲まで、数多いレパートリーから七曲を選びました。演奏が



▲見事な音色を披露

はじまると、大正琴の音色に合わせて自然と歌声が起り、それが大正琴にぴったり合うのには驚きました。

また、当日友情出演していた

だった松島会の踊りと歌と大正琴、そして園の皆さんの歌声が一体となった黒田節はすばらしく、大きな拍手が起こった時は、胸に「ジン」とくるものがありました。

お年寄りたちは満足感に満ちあふれたようにどの顔も笑顔がっぱい、私たちも慰問にきて本当によかったなと感じ、玄關までの見送りを受け、再演の約束をしました。大正琴を愛好する私たちは、これを機会により多くの人に聞いていただくと思いました。

スポーツ教室の

お知らせ

◆硬式テニス

- 対象者 一般男女
- 期日 毎週・月・日・日
- 会場 町民テニスコート
- 定員 30名
- 講師 福島県テニス協会
元国体選手
菅野 泰信氏
- 時間 午前9時～11時
- 内容 だれでも気軽ににはじ

～参加者募集～

ふれあいと出会うの旅 町民登山

期日：6月4日(日) [雨天の場合6月11日(日)]

集合場所：公民館前(午前6時45分)

コース：宮城蔵王～(縦走)～山形蔵王

参加費：大人3,000円 中学生2,000円 小学生1,500円
(小学3年生以下は保護者同伴)

募集人員：40名 ※定員になり次第締め切ります

申込み先：公民館へ(電話での申込み可☎85-2676)

締切日：5月30日(火) 午後5時まで

持ち物：弁当・軽食分、服装・軽装な物、雨具、セーター、靴・歩きやすいなれたもの



○受講料 千円(当日納めてください)

○申込み先 5月23日まで公民館へ

めることができるスポーツで、仲間をつくり、ルールや練習方法を身につけ、ゲームを楽しみましょう。



マナーを守り

スポーツを楽しみましょう



平成元年度 事業計画 (スポーツ大会など)

月日	大会名	内容	対象者	会場
5 21	県民スポーツ大会町予選会 (壮年ソフト)	トーナメント戦	40歳以上男子	運動場
6 4	町民登山	登山	一般男女	山形蔵王
6 11	県民スポーツ大会町予選会 (卓球)	団体・トーナメント戦	一般男女	体育館
6 11	県民スポーツ大会町予選会 (バドミントン)	団体・トーナメント戦	一般男女	体育館
6 25	県民スポーツ大会町予選会 (家庭バレーボール)	トーナメント戦	30歳以上女子	体育館
6 25	県民スポーツ大会町予選会 (軟式庭球)	団体・トーナメント戦	一般男女	テニスコート
7 9	伊達スポーツ大会町予選会 (ソフト)	トーナメント戦	一般男子	運動場
7 23	県民スポーツ大会 (県北大会)	トーナメント戦	各代表チーム	福島市
7 30	第10回少年ソフトボール大会	トーナメント戦	各小学校高学年	運動場
8 6	伊達スポーツ大会町予選会 (バドミントン)	団体・トーナメント戦	一般男女	体育館
8 6	伊達スポーツ大会町予選会 (テニス)	団体・トーナメント戦	一般男女	テニスコート
8 13	伊達スポーツ大会町予選会 (卓球)	団体・トーナメント戦	一般男女	体育館
8 13	伊達スポーツ大会町予選会 (軟式庭球)	団体・トーナメント戦	一般男女	テニスコート
8 13	第6回スポサソフトボール大会	トーナメント戦	小学生	運動場
8 27	伊達スポーツ大会町予選会 (剣道)	団体・トーナメント戦	一般男子	体育館
8 27	伊達スポーツ大会町予選会 (バレーボール)	トーナメント戦	一般男女	体育館
9 1	第8回町長杯争奪ソフトボール大会	トーナメント戦 (ナイター)	一般男女	県北中グラウンド
9 3	伊達スポーツ大会 (テニス)	団体・トーナメント戦	一般男女	テニスコート
9 29	第7回町長杯争奪ゲートボール大会	予選リーグ戦		
9 30	第7回町長杯争奪ゲートボール大会	決勝トーナメント戦	愛好者	福祉センター前広場
10 8	高齢者・婦人運動会	10種目程度	高齢者・婦人	福祉センター前広場
10 29	第24回国見町・桑折町少年剣道大会	団体・個人戦のトーナメント	両町小中学生	体育館
11 12	第13回町内一周駅伝競走大会	10区間リレー	中・職域・一般男女	町内
12 3	第8回伊達郡内一周駅伝競走大会	12区間リレー	各町代表チーム	伊達管内
1 28	親子スキー教室	スキー教室	親子	塩沢スキー場
2 4	第5回国見町綱引き大会	予選リーグ戦	一般男女	体育館
2 18	町民スキー教室	スキー教室	一般男女	天元台スキー場
2 25	第5回伊達郡綱引き大会	トーナメント戦	各町代表チーム	伊達管内
3 25	第7回町長杯家庭バレーボール大会	トーナメント戦	婦人	体育館

*11月26日 (県縦断駅伝大会)

平成元年度 事業計画 (スポーツ教室・講習会)

月	事業名	内容	対象者	会場
5	ゴルフ教室	基本から応用	愛好者	白鳥カントリークラブ
6	硬式テニス教室	基本から応用	愛好者	テニスコート
6	町民登山	自然に親しむ	愛好者	山形蔵王
7	水泳教室	水に親しむ	婦人・親子	町民プール
10	ジョギング教室	ジョギング	小・中学生・一般男女	ジョギングコース
11	ボーリング教室	基本から応用	婦人・高齢者	からしまボール
1	親子スキー教室	基本から応用	小4年以上	塩沢スキー場
2	町民スキー教室	基本から応用	一般男女	天元台スキー場

わだ い



農業市

にぎわう



▲晴天に恵まれた農業市

五月晴れの好天に恵まれた五月五日、恒例の「農業市」が親月台公園で開かれ、町内外の農家の人や、子ども連れの人たちなど、多くの人出で終日にぎわいました。

公園の沼の周囲一面に所狭しと並んだ屋台には、草花や苗木、青果物、また子どもたちに人気の金魚すくいやおもちゃ屋などが並び、買い求める客が切れ目

奥州合戦を 特大壁画に

なく続いていました。

奥州合戦八百周年を迎えた今年、町内に合戦の模様を再現したジャンボ壁画がお目見えしました。県北中学校の美術の得意な生徒十人が、福島信用金庫国見支店駐車場壁に製作したもので、四月五日に完成。

壁画作りは福島信用金庫国見支店が「奥州合戦八百周年ブーム盛り上げのひとつになれば」と考え、県北中に協力を依頼し、下絵作りから約一か月がかりで製作したものです。

壁画は高さ一・六m、長さは両側合わせて約三十m、生徒たちは何種類もの水性ペイントを



▲最後の仕上げに張り切る県中生

国見町工業クラブ を設立

を設立

年度末の去る三月三十一日、国見町に立地する企業有志の力が、地域産業の振興と企業間の発展を図るための組織づくりとして、かねてより準備を進めていた連絡調整機関の設立総会が開催されました。席上、満場一致で名称を「国見町工業クラブ」に決定、初代会長に廣木孝安さんを選出し発足いたしました。

これは、企業間の連絡を密に



▲国見町工業クラブ設立総会

して、企業の発展を目ざすとともに、地域産業の振興に寄与することを目的に設立されたもので、会員は町内所在の製造を営む企業で結成され、今後、その目的達成のために各種活動が計画されており、一層の町内企業間の情報交換と連絡調整機関として期待されております。

(敬称略)

- 会長 廣木孝安 (国見電子)
- 副会長 菊地淳智 (国見機械)
- 副会長 荒木輝征 (県陸商會)
- 理事 平仁 (国見タイツ)
- 理事 東海林一樹 (マルトメリヤス有)
- 監事 渡辺寛 (kk福梁製作所)
- 監事 彦坂勝利 (国見製菓)

オープン

白鳥カントリークラブ 飯坂温泉コース

東北初のナイター設備(全ホール)を備えた白鳥カントリークラブ飯坂温泉コースが、四月二十六日オープンしました。

これは、町が企業誘致の一環として進めてきたもので、コースは十八ホール、また、宿泊施設やレストランも完備され、今後県内外の多くのプレイヤーでにぎわいそうです。

編集日記



▲新緑の中プレーを楽しむゴルファー

オープン初日は、多くのプレイヤーが訪れ、まばゆい新緑の中、きれいに整備された芝の上で、思いっきりプレーを楽しんでいました。

○ゴールデンウィークも過ぎ、いよいよ新緑の季節を迎えました。野山の新緑も一段と濃さを増し、初夏の味覚「初ガツオ」の水揚げも報じられました。

○六月五日から環境週間が始まります。先日、ちよっとドライブに出かけた折、道路沿いや行楽地で目についたのが空き缶やごみの山。全国で一日に出るごみの量は約十二万トン。清掃車十万台分の量とか。一人一人が気を付けてきれいな町づくりを目指したいものです。(K)